

SPring-8へのアクセス

——— 利用者の立場から望ましい共同利用体制・運営体制を求めて ———

会長 菊田 惺志

SPring-8計画は、ハードウェアとしての施設建設はかなり進んできましたが、共同利用体制・運営体制などのソフトウェアにつきましては、早急にその整備の方針が確定されることが望まれていました。このたび幸いなことに科学技術庁の航空・電子等技術審議会電子技術部会に「大型放射光施設分科会」が設けられ、大型放射光施設の効果的な利用・運営のあり方についての検討が始められました。それと関連して文部省において「大型放射光施設利用に関する懇談会」が置かれ、大型放射光施設に関し大学等研究者の利用方法等について検討が進められています。

SPring-8利用者懇談会の前身である次世代大型X線光源研究会において運営ワーキンググループをつくり、利用者の立場から望ましい共同利用体制・運営体制に関して検討してきました。このたびの動きに対応して利用者懇談会に新たに運営幹事を置くこと、およびその幹事に塩谷亘弘氏をお願いすることとしました。これについては稟議により運営委員の方々の賛同を得ました。なお塩谷氏は利用幹事のお一人でしたので、移っていただくことになりました。すでに運営幹事を中心に、従来の検討結果を活用しつつ、利用者懇談会の要望をまとめる作業が進められています。利用者の意向が前記の会合などにおける検討に反映されるように、また関係する機関に接触を深めて理解が得られるように努めたいと思います。



SPring-8共同利用の制度整備について

運営幹事 塩谷 亘弘

SPring-8の共同利用に関する制度整備について、最近ようやく科技庁と文部省との間で話し合いが始まった。すなわち、科学技術庁は長官の公的諮問機関である「航空・電子等技術審議会、電子技術部会、大型放射光施設分科会」に文部省の参加を要請し、共同利用の制度整備に関する検討を開始した。文部省はこれを受けて、省内に「大型放射光施設利用に関する懇談会」を設置して、SPring-8に対する基本的態度の検討と、文部省関係の研究者・大学院生がどのような形でSPring-8を利用して行くべきかの検討を始めた。まず、文部省側のSPring-8への対応の仕方を検討するための予備的懇談会が、KEKの菅原所長によって召集された。これはKEKが文部省傘下の放射光関係の研究機関としては最も大きいために、文部省がKEKに意見を求めたために開催された懇談会である。この動きに連動して、幹事会